


横浜市から
犬の飼い主の方への
お知らせ


忘れずにね♡

主射を



- 🐾 狂犬病予防法(第5条)で定められています。
- 🐾 狂犬病予防法施行規則(第11条)で定められています。

 横浜市動物の愛護及び管理に関する
条例（第7条、第9条）で定められています。

 狂犬病予防法(第4条、第5条)で定められています。



3 尿は水をかけるだけだと臭いが残ったり、かえて広がってしまうこともあるため、**ペットシート等で吸い取るなど、配慮すること**



対策 チェック



対策3

✓ 避難用品を準備している

避難場所には餌やケージ等、ペット用品の備蓄はなく、救援物資もすぐに届くとは限りません。最低でも5日以上は準備しておきましょう。

準備しておこう

キャリーバッグ及びケージ、フード、水、ペットシート、新聞紙、リード、糞尿の処理用具、常備薬、ペットの災害用手帳 等

対策4

✓ 一時預け先を確保している

あらかじめペットの一時預け先を確保しておくことが大切です。特に、大型の動物、危険な動物など、管理や受入れが難しい動物は、預け先や飼育場所を事前に確保しておきましょう。

対策5

✓ 在宅避難ができるよう備えている

住み慣れた自宅で過ごせる在宅避難は、ペットのストレス軽減が期待できます。自宅の被害が少なく、二次被害の危険がない場合には在宅避難も選択肢の1つです。普段から家具の転倒防止などの備えをしておきましょう。

災害時の対策について、横浜市動物愛護センターホームページもご確認ください。

横浜市 ペット 災害

検索

災害に備えましょう

災害は突然起こります。大切なペットのために日頃から対策ができていくかチェックしておきましょう。



✓ 飼い主を明示している

災害時に迷子になったペットを探すために、飼い主が分かるようにしておくことが大切です。犬には必ず鑑札や狂犬病予防注射済票をつけましょう。また、マイクロチップの装着と登録、迷子札の装着などを行いましょう。

対策1

✓ しつけや健康管理をしている

災害時に預けたり、避難場所へ同行避難し共同飼育する場合には、基本的なしつけや健康管理をしておくことが非常に大切です。日頃から狂犬病予防注射をはじめとしたワクチン接種やダニ・ノミの駆除を実施し、キャリーバッグやケージの中で過ごすことに慣らしておきましょう。

特に大切なこと



「待て」「座れ」
「不必要に吠えさせない」など



「人とのふれあい」に慣らしておくなど

これで災害対策バッチリ!



災害時の ペット対策

～ペットとの同行避難対応ガイドライン～

